

親子通所事業Ⅰ（どれみ）

【利用対象】豊中市内に在住の、児童発達支援を受けるための受給者証をお持ちの保護者とともに通える、支援が必要な２歳児の児童

親子通所を通じて、生活経験を広げ、親子の信頼関係や人と関わる心地良さを感じ、子育ての悩みや喜びと一緒に感じあえるよう支援します。また、お子さまの「強み」「弱み」を保護者が理解し、お子さまが持っている力を発揮しやすくなるように、環境やかかわり方を検討し、ご家庭での子育てに取り入れるための工夫を、保護者の方といっしょに探していくことを大切にしています。

発達支援	健康・生活	・食事、排せつ、着替えなど、本人にとってわかりやすくなるような工夫を、保護者の方と一緒に考えます。まずはご家庭でのお子さまの様子をお伺いし、その内容を参考にして、工夫を検討していきます。 ・本人が取り組みやすい部分からスモールステップで取り組んでいきます。 
	運動・感覚	・さまざまな遊びや活動を、親子で安心して経験する場を提供します。 ・設定遊びや課題の時間を通して、おもちゃの遊び方や道具の使い方などを知る、体験する機会を作ります。 ・視覚、聴覚、触覚などの感覚を使った設定あそびを行います。 例：粘土・きれいな紙・楽器・風船・タオルブランコなど 
	認知・行動	・活動の見通しがわかりやすくなるよう、今の活動が終わったら次に何をするか本人に伝えるなど、見通しの伝え方を工夫します。また、見通しは本人がわかる方法（写真など）で伝えるようにします。 ・遊びなどの各活動の終わりについて、活動の区切りがわかりやすくなるような方法を探ります。例：次の活動の具体物や写真を提示する。１０数えて活動を終えるなど。 
	言語・コミュニケーション	・コミュニケーション場面としては、まずは好きなもの（おもちゃや食べ物）を要求することから始め、伝わった！という成功経験を大切に、スモールステップで取り組みます。 ・自分の気持ちを相手に伝える方法については、本人の行動を観察して、一人ひとりに合わせて、どのような手がかりが有効か探っていきます。 
	人間関係・社会性	・複数のお友だちと場所やものを共有するような小集団の場で、大人が間に入りながら、本人が安心して過ごせるようかかわります。 ・朝の会や帰りの会など、お友だちと一緒に活動に参加する機会を作ります。 例：パラバルーン、風船、きれいな紙など 
移行支援		・本人やご家族の意向を踏まえて、就園に関する情報について、職員より保護者に提供します。 ・本人の特性やニーズなどを環境の変化（入園など）の際に保護者がより本人のことを移行先の機関へ伝えやすくなるよう、豊中市の「支援手帳」について情報提供します。保護者が記入するうえでわからないことがあれば職員がサポートします。 ・職員より就園先に対して、どれみでの様子や配慮することなどの情報を引き継ぎます。
家族支援		・保護者が本人の行動を客観的に観察する機会を設定し、職員からも本人の特性について保護者にフィードバックします。また、個別に面談の機会を設定します。 ・どれみでの生活を通して、本人の課題や得意なこと、強みなどについて職員より情報提供します。
地域支援		・本人にかかわる地域の関係者、関係機関との連携のために、どれみや家庭、地域生活などのそれぞれの本人の行動について、職員より各機関へ情報共有する機会を設定します。